

ゆりのき通信

Think Globally, Act Locally

第9号 H25.9.20 ゆりのき会発行



復興支援in気仙沼



参加者の感想

1の7 N.S.

私は東北へ行き、知っているつもりで知らなかった現状、当時について学ぶことができました。現地を歩いてみると、建物が建っていた跡や壁や窓、看板が壊れている所がありました。がれきなどはもう残っていませんが、よく見ると震災の面影を感じました。

避難して助かった人、避難途中で津波にのみこまれた人、亡くなってしまった人、いまだ見つかっていない人……。約二年半たった今でも東北の人々は現状と向き合い、前向きに闘っているんだなぁと思いました。

1の7 S.O.

私は、人の役に立つボランティア活動をしたいとずっと思っていたので、今回参加しました。今回の活動で一番印象に残っていることは、仮設住宅への訪問です。そこで一人のおばあちゃんと仲良くなったのですが、その人は、「あなたたちがこうやって来てくれることが本当に私にとっての生きがいの。」と言っていました。私は、どうやって喜ばせようという気持ちよりも、何かしようというちょっとした気持ちが一番大切なのだと感じる事ができました。

3の8 Y.S.

私は被災地の現状が知りたい、被災地の方に笑顔届けたいという思いから、この活動に参加しました。仮設住宅に訪問した時におばあちゃんが「来てくれてありがとね」と涙ぐんで行ってくれたのがとてもうれしかったです。また、被災地の方がとても温かく私が元気をもらいました。とても素敵な経験が出来たと思うので、今後の生活に活かしていきたいです。

1の6 A.N.

私は実際に東北へ行き、自分の手で何か力になりたいと思い、このボランティアに参加しました。東北の方との交流では、どこまで話を進めていいのか、何をすればいいのか戸惑いもありました。被災したままの学校や家、島民の方のその時のことや家族のお話には胸が苦しくなりました。そんな中、仮設住宅でお話をした人や商店街で会った人が「来てくれてありがとう。みんなが東北に来て笑顔になることでみんな元気になるんだよ。」とってくださいました。自分が小さいながらも役に立てたと思えて、うれしかったです。東北の今を見てきた私たちが今何をできるか考え、みんなに伝えていきたいです。

1の7 M.O.

私は東北のボランティアに行き、報道などでしか知らなかった現地の実情を知ることができました。また、現地の小さい子供達やお年寄りなどとも交流してたくさんのものでることができました。

1の3 U.I.

私は今回の復興ボランティアで、震災後の様子を目の当たりにし、自分の無力さを感じ、東北の方々の本当の声を聞きました。これらをどう活かすのか、どう伝えるのか、今回のボランティアが自分を、そして東北を変えるきっかけになれることを願っています。

1の1 K.S.

仲間に恵まれ、楽しかったのですが、道路脇の流されてしまった家の跡を見て、復興はまだまだ途中であると感じました。この体験を忘れず、皆に伝えて行きたいです。

1の4 K.O.

僕は、今回のボランティアに、今の自分に何ができるのかということが知りたくて参加しました。この体験で学んだことは、今被災地に必要なものは多くの物資ではなく、多くの被災地への優しい気持ちだと思いました。しかし、実際に僕たちにできることは少ないです。だから、少しでも本当の被災地の現状を理解して思いを被災地に向けていくことが重要です。

これから、現場に行った僕たちが、少しでも多くの人に現状を伝えていくようにしたいです。

